

『そらまめ』 『歌舞伎』 『カボチャ』

『東京モーターショー2011』の会場を見て回っていると可愛らしい乗り物が数台展示してある。

あまりにも可愛く、愛らしいので足をとめて見入っていると、そっと近づいてきた責任者らしい男性がそれぞれの『KOBOT(コボット)』の名前、特徴などを教えてくれる。『そらまめ』『歌舞伎』『カボチャ』と言われれば、なるほど、その通り。『KOBOT』ブースの知的で上品な感じのコンパニオンの女性も近づいてきて「私はあのカボチャの馬車が好きです」と言う。「ディズニーのシンデレラが王子様の



可愛く、愛らしい『KOBOT(コボット)』達

お妃選定の舞踏会へ行くときに魔法使いのお婆さんが、シンデレラが王子さまの住むお城まで乗ってゆくための馬車を、カボチャに魔法かけて出してくれる」が、このコンパニオンの女性がほほ笑みながら、感想を述べてくれると、この会社が魔法使いに見えてくる、から不思議だ。

「トランスフォーマー」ではないが、この『KOBOT』達、スペースの貴重な都市部で使われることを想定していて、今でもコンパクトなのに、よりコンパクトにするために使わない時にはタイヤ部分が自動的に本体内部に収納される。メルヘンと近未来へのロマンにあふれた見ごたえだった。

異業種メーカーからの参入 次世代型電気自動車のコンセプト

魔法使いの名前は興和テムザック株式会社。(福岡県宗像市河東816-1、代表取締役：芹田慶人)

電動モビリティ『KOBOT』のコンセプトモデルをいきなり『東京モーターショー』にだせるのだから、よい時代に

なってきた。自動車メーカーでなくともコンセプトと試作モデルがあれば『東京モーターショー』でアピールできるのだ。世の中に訴えて評価をみる。そういう意味でビジネス機会を増やし、新しい才能が育つ



『そらまめ』 自動的にタイヤを収納し、よりコンパクトに